

六葉会会報

vol.16



関東学院六浦中学・高等学校同窓会

関東学院六浦中学校・高等学校 創立50周年記念誌が発行されました。

六葉会では、在校生全員に、この記念誌を増刷し贈呈させていただきました。なお、卒業生でご購入希望の方は郵便振替口座をご利用下さい。残部が少なくなりつつあります。

一冊 1,500円（送料込）です。
手数料は別途お支払下さい。

郵便振替払込口座

口座番号 00240-4-56793

口座名 同窓会 六葉会



■目次

新会長挨拶 六葉会会長 西岡 義榮	1
名誉会長挨拶 六葉会名誉会長 田野井 一雄	2
校長挨拶 校長 落越 道彦	3
OB対談 鈴木 康浩	4
OB訪問 松島 美一	6
生徒会紹介 矢ノ目 真展	7
退職教員の現状報告	
伊藤 孝一	8
大井 人	9
細川 美月	10
思い出のスナップ	11
六葉会の活動	12
2003年度決算報告書	13
同窓会レポート	
しろばっち同期会	14
第19回生 学年同窓会を開催	15
ホームカミングデーの企画と案内 野澤副会長	15
文化・経済フォーラムの開催案内 西岡会長	15
学校へ行こう「六浦祭」10/29・10/30開催	16
計報	表3
維持会費のご協力をお願い	表3
募集コーナー	表3
編集後記	表3
関東学院六浦中学校生徒募集要項	裏表紙

新会長挨拶

皆様のお役に立つことのできる
「六葉会」をめざして頑張ります



六葉会会長

西岡 義榮

(第14回卒)

卒業生の皆さんお元気ですか？
このたび六葉会の会長に任命されました西岡義榮（14回卒）です。
前任の田野井会長は30年間の長い間会長としてご活躍されました。ほんとうに素晴らしい多大なるご貢献をいただきました。感謝申し上げます。みなさんご存知のこととは思いますが母校は一昨年で、満50周年を迎えました。卒業生の数も11、356名となりました。また、キリスト教の私学としては横浜でも優秀な名門校として位置付けられて来しました。このことはとりもなおさず卒業生と母校の教職員のみならずのおかけであると思います。このかぎりない大きな財産を、私たち六葉会が「人になれ、奉仕せよ」の校訓のもと、実

社会において、おおいに活躍されて貢献しなければならぬと考えています。おりしも、少子化の波が私学の根幹を揺るがす事態となつてまいりました。この大切な時期に卒業生の皆様が一致団結して惜しまず協力をしていただけたら素晴らしい事だと思います。

今年度の目標は「結束しよう、母校と卒業生全員のために」ということで、組織の中に「卒業生支援委員会」、および「母校支援委員会」の二つの委員会を新設させていただきます。名称のとおり、皆様のお役に立つことのできる「六葉会」をめざして頑張ります。どうか卒業生の皆様のご協力よろしくお願いいたします。

母校よ永遠なれ

六葉会名誉会長

田野井 一雄

(第7回卒)



長い歴史と伝統に培われたわれらが関東学院六浦中学高等学校が昨年記念すべき50周年を迎え、ますます充実発展をとげていることは、卒業生のひとりとして大きな喜びです。

本年、52回目の卒業生を送り出しその人数もゆうに10,000人を超えました。わたくしも30年間六葉会会長として多くの先輩・同窓のみなさんと母校の発展と卒業生の交流に微力を尽くさせていただき、活動できたことを感謝いたします。

21世紀に入りグローバル社会の進捗はまさに地球的規模で課題が山積しております。少子高齢化・情報化・国際化・資源エネルギー環境問題・構造改革等いままでの機構システムを再点検再構築しなければならぬ時代背景です。

そのうえ、少子化に伴う学校経営はますます厳しさを増し母校も例外ではありません。とくに教育問題は日本の将来にとってもっとも重要です。(人になれ奉仕せよ)の校訓は人間のいき方あり方の基本原点だと思っています。このたび、新たな時代に対応すべく西岡会長、野沢副会長、早坂幹事長を中心としたみなさんにバトンタッチいたしました。

永年いたらぬ私をささえていただきました歴代の副会長・幹事長をはじめ役員の皆さんそして、校長先生をはじめ学校関係者の皆様方にご支援をいただき心より感謝申し上げます。

今後とも母校の発展と六葉会の充実拡大を祈念し「母校よ永遠なれ」と申し上げ、ご挨拶と致します。

校長挨拶

「自己実現に

向けて」



校長

落越 道彦

六葉会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。六葉会におかれましては、この度、会長が田野井一雄氏から西岡義榮氏に引き継がれ、新人事のもので活動されています。本校への熱い思いとご支援の方針も同様に引き継がれましたこと感謝申し上げます。

す。長年会長を務められた田野井一雄氏並びに幹事の方々のこれまでのお働きに対し、心より謝意を表しますとともに、会の益々の発展とご活躍を祈念申し上げます。

本校は昨年、現校名が許可されて五十年という節目を通過しましたが、これからも建学の精神を基本とし、求められる有用な人材を送り出していきたいと思います。社会には離職者や無業者増加の問題があり、目的意識や就労意識、自分の人生設計や生活設計などを持った人達が求められています。このためには単なる進学指導でない、職業観の育成なども含めた広い進路指導が必要であり、中学二年生からそれに取り組んでいます。今年も生徒達を中心に、そして例年大変な情熱を持って取り組む姿が見られる行事、六浦祭の時期になりました。生徒達が設定した今年の統一テーマは「六浦の

舞」く煌く瞬間（きらめくとき）です。学校全体で目標に向かって頑張る姿、そして六浦祭の成功を思う表情をイメージしたということです。卒業していく生徒達に在校時代の思い出あるいは感動したことを尋ねると、その代表的な答えのひとつが六浦祭です。当初の計画どおりにいくか大変不安な中で、仲間たちと互いに協力しあい、成し遂げた充実感忘れられないというものでした。ここには時代や社会の変化に影響されない、若者達の自然な気持ちが見られます。このような貴重な体験などからも将来への自分の夢や目標を持ち、社会の変化が早くても実現へと向かっていく人になって欲しいと願っています。今の生徒の姿を見ていただける機会でもあり、卒業生の皆様に六浦祭のご案内をさせていただきます。

OB対談 — 人生の成功の秘訣を探る —

ご活躍されている卒業生にお伺いしました

平成16年10月5日（火） 於：磯子カンツリークラブ

磯子カンツリークラブ 代表取締役会長 鈴木 康浩（7回生）
キングフィールドズゴルフクラブ 代表取締役社長

（聞き手）六葉会会長 西岡 義榮（14回生）
六葉会副幹事長 鬼嶋 雄三（27回生）



▲鈴木氏

■在籍当時の思い出
西岡 今日のご活躍をされている卒業生に、事業で成功された秘訣、在籍当時の思い出をお伺いしていこうと思います。鈴木さんは7回生でいらっしゃると思いますが、在籍当時の思い出はどんなことがありますか？
鈴木 学校の決まりごとに反発した思い出はたくさんあります（笑）。当時の先生には随分ご迷惑をおかけしました。今と違って勉強をほとんどしていませんでしたから、成績は普通としておきましょう（笑）。幾何（数学）が苦手で、幾何の担当で教頭先生だった岩楯幸雄先生に大変お世話になったのを憶えています。先生の授業は今でも強く印象に残っています。

西岡 岩楯先生は私の時代は校長先生でした。今でも背筋が伸びて、カクシヤクとしていますよ。
鈴木 そうですね。スラッとしていて服装もおしゃれな先生でした。第一印象で素敵な先生だなと思い、大好きでしたね。清潔感があり、生徒を静かに見守る優しさがありました。卒業してからも相談にのってもらうことが多く、先生の奥様にもお世話になりました。今でも年に数回お会いするんですよ。
西岡 今も昔も関東学院にはいい先生がたくさんいらっしゃいます。私は栗沢竹雄先生の聖書の授業が思い出に残っています。実体験に基づくお話だったんで、非常に分りやすかった。鈴木 聖書の授業は面白かった。私



▲写真左：鬼嶋氏、写真右：西岡氏



▲磯子カンツリークラブ

は白根新治先生だったのですが、話し方が上手で授業が楽しかったです。今思うと、もう少しよく聞いておけば良かったと思います(笑)。

■無我夢中に取り組んできた事業
鬼島 こちらのゴルフ場は、コースはもちろん、建物も素晴らしいですね。鈴木 ありがとうございます。この建物は卒業生である一回生の磯山元さんに設計をいただいたんです。磯山さんの設計は気に入っております。西岡 ゴルフはいつ頃から始めたのですか？

鈴木 高校二年生頃からです。父が

ゴルフ場の経営に携わっていましたので。当時は自宅で練習をしていました。庭が広かったんですよ。七、八十ヤードはあったと思います。西岡、鬼嶋 すごい広さですね。

鈴木 球拾いをしてくれる人もいましたね。(笑) 夜遅くまで練習できました。当時、家や父の会社には、サポートしてくださる方々がたくさんいたんです。大学を卒業した翌年に父親が亡くなり、ゴルフ場を経営するのに、苦労して随分助けてもらいました。鬼島 若い時にお父様を亡くされたのですね。

鈴木 父は五十七歳で他界しました。このゴルフ場を作り、苦勞を抱えながら経営をし、命を縮めたようなものです。仕事を引き継いでは無我夢中でやってきました。毎月十一日が月命日で、その日は必ず兄弟と会社の幹部でお墓参りに行きます。自然と足がお墓に向いてしまいますね。もう四十年も続けています。とても優しく、厳しさのある父でした。

■成功の秘訣

鬼嶋 鈴木さんのご兄弟はみなさんご活躍されていて、私の会社でもお手本にしているぐらいです。すごく真面目な経営をされていますね。

鈴木 経営は生き物ですからね。毎日コツコツと真面目にやるしかないんですよ。そこに皆さんの支持を得たのだと思います。

仕事、それ以外についてもそうですが、常に心掛けていることは自分に厳しく、人には優しくということです。関東学院の校訓「人になれ、奉仕せよ」の素晴らしいをあらためて感じます。今後も皆さんに支持される経営を目指して努力していきたいと思っています。

西岡 今日いろいろなお話をしていただき、ありがとうございます。今後ますますご健勝であられますようお祈り申し上げます。

鈴木 康浩氏

家族構成…妻、娘二人
趣味…陶芸、読書



一期生の思い出

第1回卒 松島 美一

昨年(2003年)11月15日に母校、関東学院六浦中学校50周年記念式に出席した。

受付で名前を書き一期生と記すと、受付の若い女性に驚いたような声をあげた。彼女らの年配の人には、幽霊が現れたかと思っても無理ないことかも知れない。この時いただいた「50年のあゆみ」を繰りながら住時を偲んだ。

私たちが関東学院中学校に入学したのは1947年、終戦2年目のこと。この年から小中高校633制が実施され、5年制の旧制中学がなくなり、新制中学3年、高校3年制が始まる。三春台校舎が戦災で焼失していたので、六浦に新制中学1年生が入り、旧制中学2・5年生がいたことになる。1年生には1組が女性徒、2・4組が男生徒、2・5年は当然男子ばかり。クラス担当の他に1年生の学年担任があり聖書の八木一男先生だった。後年の一期生一組

の担任河原信子先生、当時中学4年だった八木誠一さんは一男先生のお子さんたちである。誠一さんは後年、私が大学に入った時、唯一の関東学院先輩として在学しておられた。後に東京工業大学、横浜桐蔭大学の教授になられた。

関東学院初めての女性徒に先生方は心配して、上級生との交流を制限しようとしたらしい。それでも間違いは起こったらしい。おくての私は知るよしもなかったが。

3年になる時三春台校舎が復旧して戻ることになった。三春台で入学した旧制の生徒は問題なかったが、六浦に入学した私たちの学年には通えなくなる生徒がいた。

私もその一人であった。そこで一部は六浦に残ることとなり六浦教室の生徒と呼ばれるようになった。2年間ともに学んだ三春台校舎の同級生とはその後も交流があり、しばらくは両方で教えられる先生も多かった。現在は先生、生徒とも交流なく、別の学校のようになっていると聞くが、残念に思う。

この頃まで私たちは、後に大学が使った校舎にいた。運動場の反対側は旧制神中(神奈川第1中学)が使用

している校舎だった。旧制中学は私の1年以上の学年が最下級生のまま、彼らが4年になった時、新制高校1年となる仕組みだった。希望ヶ丘に新校舎ができた彼らはこの頃移転していった。その校舎に私たちは入ることとなった。これが今も語り継がれているらしいオンボロ校舎である。

六浦校舎の初期は生徒も少なかったし、専任教員も少なかったたので、大学の先生が高校生を教えてくれた。数学の岡本石根先生、人文地理の柴三九男先生が記憶に残っている。私には化学の馬場先生が印象的だった。大学の階段教室での授業も嬉しかった。少数だが化学実験室で実験も経験させていただいた。後年私が化学の研究・教育の道に進んだのも、この授業の影響であろう。

このオンボロ校舎で関東学院高校六浦校舎の名のもとに女生徒一組男子一組の一期生は学び、1953年3月卒業した。卒業直前関東学院六浦高校が許可され、1期生となった。卒業したのは87名、その8割以上は生存し、毎年クラス会をし、三十数名が集まる。来年3月末までに全員が古希を迎えるはずである。

生徒会

矢ノ目 真展
(第52回卒)

生徒会の活動は4月の新入生クラブ紹介から始まります。そして生徒会役員を決める生徒会選挙を経て、5月の定期生徒総会を開きます。この総会では主に年度の生徒会活動の方針を発表します。次に7月の中学・高校球技大会に向けて活動を始めます。生徒会だけでなく各クラス委員、運動部の協力も得て準備・運営をし、それと平行して11月の六浦祭の準備をしていきます。球技大会

が終わると本格的に六浦祭一色に染まり、パンフレット作成や食品衛生、備品整備に学校への多くの提出書類と、この頃は最も生徒会活動が忙しくなります。六浦祭が終了すると1月の定期生徒総会、さらには来年度のクラブ紹介へと活動を移していきます。

これら行事運営の他に、生徒総会やアンケートで得た生徒の意見を学校側へ提出する生徒会特有の活動があります。提出方法は書面上のやりとりが主ですが、臨時に学校長を含めた教員と生徒会の話し合いを行います。近年ではこれらの活動により、ウインドブレーカーや紺のハイソックスなどが新たに作られ、教員側による制服向上委員会も設立されました。クラブ活動へは新たに希望のあったゴルフ愛好会がクラブ規約に沿

って作られました。

活動は学校内だけにとどまりません。二〇〇一年度に関東学院生徒会(三春台)と捜真女学校共練会の相互の文化祭訪問がきっかけで交流会ができ、姉妹校ということで関東学院六浦生徒会が加わり三校交流会が始まりました。この交流会はまだ主立った活動がありません。しかし、交流を持ち続けることで三校に多くの可能性をもたらすでしょう。現在は相互の文化祭訪問や相談、話し合いによって各校の学校文化をお互いに知り、長く交流を保つための土台を築いています。

このように生徒会は多種多様な活動を通年して行なっています。今までもこれからも、生徒会活動は生徒の学校生活を支える縁の下での力持ちのような働きと言えるでしょう。

本当の『自己実現』とは

伊藤 孝一先生



定年退職をしてから6ヶ月過ぎました。在職の時は、いろいろな方面で非常に多くお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

有名な昆虫学者アンリ ファーブルの著書「昆虫記」の中にツチバチの生態が書かれています。この蜂は産卵期になると、自分の体より大きな、例えば蟬のような他の昆虫を襲います。そしてとびかかるや否や間髪をいれず、その昆虫のお腹のある一点を、自分の針で一突きします。その一点というのが目に入らぬほど

小さな場所ですが、その昆虫の運動神経の中枢にあたるので、刺された昆虫はずっと生き続けているが、麻酔をかけられ体を動かす事が出来なくなってしまうのです。その身動き出来なくなった昆虫の生きたお腹の皮膚の下に、蜂は卵を生みつけます。やがて卵からかえった蜂の幼虫は、運動神経の麻痺した昆虫の生きた体を餌として成長していくのです。この自然の姿には、心の底から感嘆せずにはいられません。どうしてこの世界は、こんなにも不可思議なのか。それでいて、その不可思議さには、確かなルールが潜んでいる様である。

解剖学者の養老孟司先生は『アンリ ファールは人間の世界を虫に向かつて広げたと言っています。ハチやチョウの動きを普通の人が見たら意味のない事をしている。だから「ああ虫がいるな」で終わってしまふ。でも昆虫は昆虫で、人間が持つ

ている行動のルールとは違うルールを持っている。そのルールは何だろうかと確かめて、今まで見えなかった事を我々に見せてくれた。泳げない自分と、泳げる様になった自分とは、同じ海でも違ってくる。怖かった海が遊び場になる。変わる事は喜びにつながる。もう一つは人の生き方、他人が見れば「そんな事やって何になるの」という世界にも魅力がある。と示してくれました。』(抜粋)

現在、関東学院大学で非常勤講師として「理科教育法」の講座を担当しています。現代の生命科学は昆虫達にプログラムされた行動を、その遺伝子情報をいじる事で、別の行動パターンに変える事が出来る様になった。この様な時こそ、教育の土台として(私のこれからの歩みの指針として) アンリ ファールルの観察と思考に大きな信頼を置くべきと確信しています。

「関東学院六浦中学校

高等学校にお世話になって」

大井 人先生



私は、1964年（昭和39）に本校にお世話になり、聖書科を担当させて頂いて参りました。そして、今年（2004年3月）定年を迎えることが出来ました。もっともこの間10年間は仙台にあります尚綱女学院の宗教主任として務めて参りましたが、その後、岩楯、石田、加藤、白根の諸先生方の御配慮によって母

校に戻ることを許されました。それから25年間宗教主任として、力不足の私を諸先生方や生徒の皆様のおかげにより、励まして下さり、働かせていただいた事に心から感謝をいたしております。

思い起こせば、新任の頃は若さにかけて、生徒と取っ組み合いながら、いぶんと高慢な教員だったなあ。と反省させられています。生徒と同じ目線に立たずに自分の地位や知識に寄り添ったのだ、自分は今さらながら未熟だったなあ、と思い起こしているこの頃です。しかし、当時の生徒諸君は良い意味でも悪い意味でも個性的で、のびのびしていた様だと思います。色々とトラブルを起す者、精神的悩みを持った者、経済問題で挫折しそうな者、人間関係、特に親との問題で悩んでいる者、今とちっ

とも変わらないこれらの諸問題をかかえていても、今の子とは違った明るさや自律性があつたように思います。

今、回りを見回すと卒業生がそれぞれ一國一城の主として活躍されています。そして、それぞれの方々が六浦でのキリスト教教育を受けられた方にふさわしい精神を持ち、気配りをされているのを見る時、若い時の六年は人生で非常に大きいものだと思わされています。私もこの仕事の一端を負うことを許されたことに感謝しています。卒業生の方々の増々の御発展と特に魂と肉体の健康が与えられるよう天父の恵と導きを心より祈りいたしまして、私の六浦中高に対する感謝と卒業生お一人お一人への感謝とさせて頂きたく思います。ありがとうございました。

「六浦の日々」

細川 美月先生



10年通ったこの学校を去るとき、中庭を歩きながら「はじめもこの桜の花をこうして見たなあ」と思いました。六浦の桜、大好きでした。少し立ち止まってみると、今までの六浦での景色が見えてきます。

この10年で好きだったこと。もの。朝一番の教室の窓開け。朝の挨拶。

礼拝で讃美歌を歌うこと。授業での生徒とのやりとり。昼休み、にぎやかな食堂でお弁当を買うこと。お弁当を食べながらの会話。あれこれ話しながらする教室の掃除。中庭の紅葉の葉の間から空を眺めること。大きな口を開けて皆と笑うこと。中学校舎4階から眺める中庭やグラウンド。心静かに祈るとき。行事の準備。パイプオルガンの音。剣道の試合の張りつめた空気。聖歌隊の歌声。その他……たくさん。

当たり前のように過ごしていた日々その瞬間、瞬間や、自分を囲んでいたものが、とても好きだったのだと今更に思います。そのときは気づかなかった「好き」もたくさんあります。こうしてたくさんさんの「好

き」を持てたのは、生徒、保護者、先生方、事務の方や学校を支える多くの方々が、支えてくださったからに他なりません。六浦には温かさや穏やかさがあります。離れてみて、その温かさ優しさにどれだけ守られてきたかを感じています。

春、また桜の花を眺めながら、私は六浦でいただいた優しさを感じるでしょう。そのとき、また大きな口を開けて笑っていられるよう、頑張ってゆきたいと思います。

最後になりましたが、これからの六浦のご発展を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございます。

思い出 の スナップ

キャンパス内



現在の校舎と中庭



右側が1967年（昭和42年）ごろの高校の校舎、現在は中学校の校舎（1号館）として使用しています。

中庭に防火用水の池が見えます。この池に落ちた卒業生もいらっしゃいます。懐かしいですね。

六葉会の活動

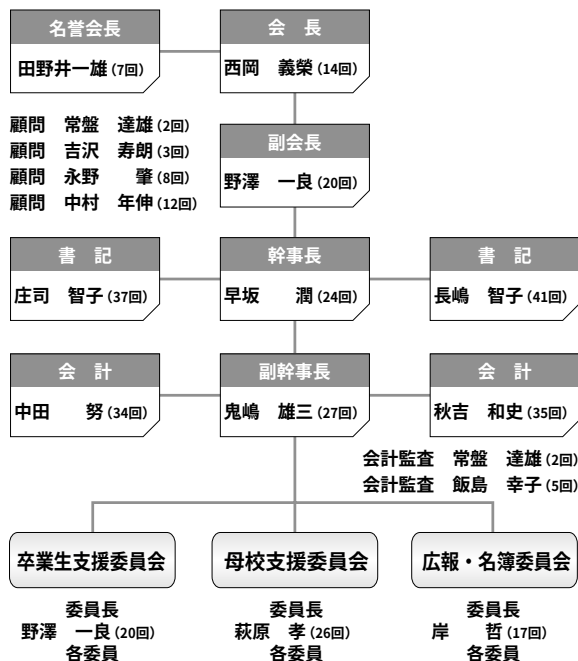
1953年（昭和28年）の春に第1回生87名が卒業して以来、本年の第52回生189名を加えて会員又は同窓生総数は二一、一六八名となりました。

この同窓会には2つの目的があります。一つめは同窓生による母校の発展に貢献することです。そして二つめは同窓生自身の発展と親睦であります。母校である六浦中高を離れ、それぞれ違った環境や、社会へと入った今、同じ学校で学んだ卒業生がお互いに情報を交換し合い、心や生活を豊かにし、励まし合って生きて行けたら最高の幸せだと考えます。

六葉会は今年も会員の皆様の提言を積極的に取り入れ、会を運営したく考えております。そして、より充実した楽しい会にできればと願っております。

六葉会 組織図

2004年度～
2005年度



この六葉会の活動を今一度ご理解いただくために、その内容を簡単にご紹介いたします。尚、月一度、学校会議室において活動をおこなっておりますので、運営に興味のあるかたは是非事務局までご一報ください。

六葉会の活動

- (1) ホームカミングデーの開催
 - (2) 名簿管理
 - (3) 母校支援活動
 - (4) 募金活動
 - (5) 会報の発行（年一回）
- （母校の建築等への援助）

六葉会2003年度 決算報告書

収入の部

科 目	2003年度予算	2003年度決算	増 減	備 考
5 1 回 生 会 費	2,721,600	2,721,600	0	189名
5 2 回 生 入 会 金	374,000	374,000	0	187名
維 持 会 費	1,000,000	1,012,000	12,000	
卒 業 生 の 集 い 会 費	50,000	0	△ 50,000	
受 取 利 息	5,000	12	△ 4,988	
繰 越 金	1,000,000	1,000,000	0	
合 計	5,150,600	5,107,612	△ 42,988	

支出の部

科 目	2003年度予算	2003年度決算	増 減	備 考
運営費				
会 議 費	250,000	247,394	△ 2,606	
印 刷 費	100,000	121,275	21,275	
通 信 費	50,000	42,000	△ 8,000	
消 耗 品 費	600,000	481,005	△ 118,995	PCおよび周辺機器など
慶 弔 費	100,000	56,500	△ 43,500	4件
援 助 費	200,000	167,000	△ 33,000	17件
合 同 同 窓 会 分 担 金	150,000	106,700	△ 43,300	
活 動 費	50,000	0	△ 50,000	
雑 費	20,000	20,494	494	
事業費				
会 報 印 刷 費	1,100,000	1,139,745	39,745	
会 報 発 送 費	900,000	776,880	△ 123,120	
行 事 費	100,000	175,663	75,663	六葉会の部屋など
生 徒 会 援 助 金	150,000	150,000	0	
積 立 金	700,000	700,000	0	
予 備 費	680,600	0	△ 680,600	
支 出 合 計	5,150,600	4,184,656	△ 965,944	
次 期 繰 越 金		922,956		
合 計	5,150,600	5,107,612	△ 42,988	

同期会レポート

「しろぼっち」同期会

メダルラ

ッシュに沸

いたアテネ

オリンピッ

ク…この4

年に一度の

オリンピッ

クイヤーに

私達は「し

ろぼっち」

と銘打って

同期会を開

催していま

す。「しろぼ

っち」は昭

和43〜49年

(22回卒)までに一度でも白い学年章を

付けた人をメンバーとする同期会で、

ソウルオリンピックの年の第1回から

数えて今回は第5回となりました。今

年は卒業の年から30年目、しかも40歳

台最後の年という正に節目の年の開催

でした。9月5日(日曜日)は、生憎

の小雨交じりの天気ではありましたが、外人墓地のそばにある山手十番館



に、永野肇先生、奥山繁樹先生、福田淳恵先生、細井博範先生、山口晃生先生のご出席を賜って70名弱の同級生とその家族が集いました。

先生方からのご挨拶、近況、思い出話にはじまり、次第に宴たけなわ。

「先生は変わらないですねえ」「キミは思いっきり老けたなあ」などと卒業アルバムと本人を見比べながら歳月を埋める作業にも花が咲きました。初めのガーデンパーティ形式で空模様にはハラハラさせられましたが、直前までの猛暑に比べれば、小雨は天の恵み、

二次会・三次会も盛り上がり、最終組が帰途についたのは日付がかわった頃だったとか。第5回も楽しく賑やかな集いとなりました。

幹事としてこれまでの4回の開催を振り返ってみますと、どの回にも思い出が多く、学校の食堂をお借りして開催した時は竹中直人君の来訪でOB・現役が入り乱れて大変な会でありましたし、母校の変貌にも驚ろかされました。ある回の二次会では居酒屋でギューギュー詰めの定員オーバー、先生方と肩をぶつけながらお話しさせていた

だいた事など、色々な場面が思い起こされます。今回、担任だった先生方に電話でご連絡申し上げた時に、まるで教員室のドアを開ける時のような背筋の伸び方の自分に苦笑いしてしまいました。次回の「しろぼっち」は北京オリンピックの年。50歳台へ突入する訳ですが、健康に気を付け、楽しい第6回を開催し、みなさんにお会い致したいと願っています。

(今回担当主幹事 飯田隆夫)

「しろぼっち」では諸事連絡にメールを利用しています。メール登録がお済みでない方は事務局・野澤澄也までメールください。nextone@estozawa.com

住所変更などの連絡も、携帯でも結構です。で極力メールでお願いします。

(〒140-0004 東京都品川区南品川6-15-25 Z BOX 野澤会計事務所内)

野澤澄也



同期会レポート

第19回生学年同窓会を開催

9月12日中華街、特に聘珍樓のある本通りはいつもにも増して賑わっていました。五年ごとに開催していた19回生の学年会ですが、今年からオリンピックの年に開催されるようになりまし

た。
50歳を過ぎ、子育てに余裕が出てきた方も多く、壁に貼られた当時の卒業写真を看に大いに盛り上がりました。80名の参加を得て、二次会そして三次会へと夜が更けるのも忘れた一日でした。

35年前にはまだ若手と言われた大西先生、奥山先生そして前校長の長野先生をお迎えし、まるで少し先輩との出会いのように、先生共々はしゃいでした。まいました。

11名の幹事が力を合わせ、大勢の級友との一時を無事過ごせたこと、そして我々の為に駆け付けて戴いた先生方に感謝しつつ、四年後の出合いを待ちたいと思います。

平成16年10月吉日
関東学院六浦高校
19回生学年会
代表幹事 藤川 譲治

ホームカミングデーの企画のご案内

来年は三月十二日(土)

六葉会では、卒業生を母校にお招きして懐かしい先生方にお会いしたりする「ホームカミングデー」を行事のひとつにしています。

第一回のホームカミングデーは二〇〇二年三月に行われましたが、第一回卒から第四回卒、そして卒業したばかりの第四九回卒の皆様をお招きしました。これからも懐かしい母校に集い、楽しいひとときを過ごしましょう。来年は三月十二日(土)今回は五回生から十回生までの卒業生をお招きします。楽しい企画を用意して皆様のご出席をお待ちいたしております。

卒業生支援委員会 委員長(副会長)
野澤一良(20回)

第四回文化経済フォーラムの開催のご案内

十一月二十五日(木)

全日本大学ラグビー選手権5年連続優勝の
春口廣監督がやって来る!



昨年9月5日に発起人会がスタートしてから早くも第4回目を迎えることになりました。卒業生のための「文化・経済フォーラム」ですが、どちらかというと経済が中心のフォーラムでした。今回の講師は全日本大学ラグビー選手権の全国制覇を5年連続優勝に導いた、われらが関東学院大学の春口廣監督をお招きいたします。名前は聞いたことがある人は多いと思いますが、今回の企画のように親しくお話を聞けるチャンスはいただけることはマレです。会員制度とかはありませんので是非どなたでもお出かけ下さい。また、懇親会もありますので企業PRや卒業期にこだわらずお出かけください。

日時 平成16年11月25日(木) 午後6時より
場所 関東学院大学関内メディアセンター
(神奈川新聞の建物内8階)
045-6500-1131
会費 6,500円(当日受付にて)
お申込み・お問い合わせは...
045-2522-2711または090-313-8363 2西岡まで

学校へ行く 六浦祭

10/29(金)・30(土) 開催

OPEN・9:00 / CLOSE・16:00

10月29日・30日の2日間
六浦祭が開催されます。
卒業生の部屋として六葉会
の部屋を今年も設けます。

門をって正面にある
中学校舎4階です。卒業
アルバムを全学年そろえ
て展示しています。現役
の生徒にも先生の学生時
代の写真がみることがで
きるとあって毎年好評で
す。是非、足をお運びく
ださい。



入試相談コーナー (3号館2階)

今回も入試に関する相
談コーナーを設けまし
た。入学試験のこと、本
校の学校生活のことな
ど、担当の教職員が対応
します。是非、ご相談く
ださい。

校内各エリアでの 催し物情報

礼拝堂

演劇部、吹奏楽部などが
発表を行います。来てく
ださい。

演劇部

10/29 13:30～15:15

10/30 13:45～15:30

吹奏楽部

10/29 10:00～12:00

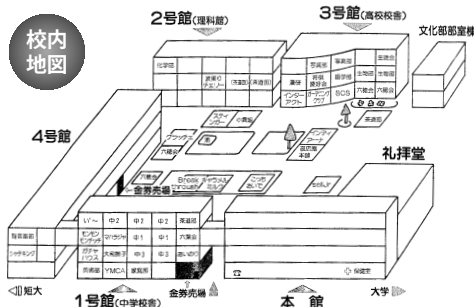
10/30 11:40～13:30

グラウンド

サッカー部のOBとの試
合を行います。

(10月30日10:30～)

見に来てください。



● 維持会費のご協力をお願い ●

2004年度の維持会費の納入をお願いしております。六葉会の運営に是非ともご協力下さい。納入は同封の郵便振込用紙をご利用の上4,000円(手数料別)お振込下さい。よろしくお願い申し上げます。

訃報

お悔やみ申し上げます

(広報委員会調査分)

◆教員

吉原 弘 先生

◆同窓

一之瀬 司 郎 3 回生

佐藤(福羽) 幸子 3 回生

小坂 勝 3 回生

高橋 晟 3 回生

小泉 武 彦 4 回生

相川 翼 志 8 回生

佐藤(三井) 啓子 10 回生

入江 一 哉 14 回生

上原 勇 作 22 回生

及川 康 行 36 回生

中村 美 希 42 回生

六葉会会員名簿

合計人数

総合計人数 11,168人

住所有 9,240人

住所不明 1,634人

永眠者 257人

海外在住者 37人

六葉会Webページのお知らせ

『六葉会 ドットコム』

<http://www.rokuyoukai.com>

住所変更はホームページの「住所変更手続き」でお知らせ下さい。

募 集

コ

ー

ナ

ー

来年度の六葉会会報の記事、投稿、想い出のスナップを募集しています。クラス会の報告や現役当時のお話などお待ちしております。

連絡先

045-791-3380

長谷川 takumi@ta-class.com

編 集 後 記

◎六葉会も52回の卒業生を迎えました。満52歳になった六葉会をこれからもよろしく。会報も年2回発行したらという意見があります。皆さん、情報をお願いします。(N)

◎仕事の合間をみて会報の編集と取材にあたりました。磯子カントリの鈴木社長には大変お世話になりました。そして、お食事ご馳走様でした。役得です。へへへ(H)

◎母校にたまにはお出かけ下さい。六浦祭も「六葉会の部屋」を卒業生で運営しています。懐かしい、おもしろい、写真がありマッセ。(K)

2005年度（平成17年度）

関東学院六浦中学校生徒募集要項

	A日程	B日程	C日程
募集人員	70名（男・女）	30名（男・女）	30名（男・女）
出願資格	いずれも本学院六浦小学校からの進学者を含みません。		
出願期間	2005年3月 小学校卒業見込みの者		
出願書類	入学志願票・受験票（本校指定）		
入学検定料	20,000円（銀行振り込み、C日程の2月2日、～2月4日）は願書受付窓口でも可） ただし、1月11日（火）～1月22日（土）の出願期間中に、2種類または3種類の試験を同時に出席する場合の検定料の合計は、一律30,000円とします。		
入学試験日	2月1日（火） 午前	2月2日（水） 午後	2月5日（土） 午前
試験科目	国語・社会・理科・算数 または国語・算数	国語・算数	国語・算数
合格発表	2月1日（火） 17:30～18:30	2月2日（水） 20:00～21:00	2月5日（土） 15:00～16:00
入学手続	入学手続時納付金：入学金230,000円 特別施設費200,000円		
	2月1日（火） 17:30～18:30 2月2日（水） 9:00～11:00	2月2日（水） 20:00～21:00 2月3日（木） 9:00～11:00	2月5日（木） 15:00～16:00 2月7日（月） 9:00～11:00
	*特別施設費は2月5日（土）まで延納可能です。 延納納付期間：2月3日（木）・4日（金） 9:00～14:00 2月5日（土） 9:00～11:00		

*提出された書類、納入された入学検定料・納付金はお返し致しません。



道 順

- 1b 京浜急行「金沢八景駅」下車（特急・急行停車駅）
- 1b 金沢八景駅から（徒歩の場合）
地図の矢印の道順で歩いて約15分。
（バス利用の場合）
国道16号に出て、バス停「金沢八景」より乗車
- 1b 京浜急行バス「追浜日産自動車行」市営バス「追浜行」のときは、「内川橋」下車、徒歩5分。
- 1b 京浜急行バス「関東学院循環」のときは「関東学院大学」下車。

オール関東学院クリスマス 2004年12月16日（木）6：00より みなとみらいホール（大ホール）

表紙作品：10回卒 島谷晃

2004.11.1発行

■関東学院六葉会 〒236-8504 横浜市金沢区六浦東1-50-1 1①045(781)2525

■印刷・（株）エイコープリント